

活動地

マレーシア ボルネオ島サラワク州 & 半島部クダ州・ペナン州



クダ州ムルボック湿地保護林他
マングローブ林再生プロジェクト

サラワク州アペン国立公園
青少年研修プログラム



ボルネオ島サラワク州「青少年プログラム」

熱帯林再生のための植林活動を実施し、2016年末に国立公園(永久保護区)となった、サラワク州スリアン地区アペン国立公園内にある「木下の森」や、地域の学校などにおいて、子供たちや大学生が植林プログラム等に参加し、森林保全の大切さを学ぶ『青少年研修プログラム』を実施しています。

「木下の森」にて、地域の子供たち(小中高校生)、教員、大学生、村人を招き、植林・メンテナンス作業体験や、トレッキングなどにより森林保全の大切さを学ぶプログラムを実施しています。

マレーシアでは、昨年からの新型コロナウイルス感染拡大による諸制限が解除され、全ての社会・経済活動が通常通りに行われるようになりました。

当年度は、「木下の森」の活動として、地域の人々による植林、育苗、メンテナンス作業だけでなく地域の学校や村落が参加するプログラムを実施したほか、「木下の森」で2,000本の植林、地域の小中学校への手洗い用洗浄液寄贈も行いました。

「木下の森」で植林活動

「木下の森」にて、地域の村人の参加を得て、村の女性が育てた果樹の苗木2,000本の植林と既植栽木のメンテナンス作業を行いました。

植林樹種は以下の通りです。

- 1 Durian / *Durio zibethinus*
- 2 Rambutan / *Nephelium lappaceum*
- 3 Cempadak / *Artocarpus heterophyllus*
- 4 Nangka / *Artocarpus integer*
- 5 Langsat / *Lansium domesticum*
- 6 Kristal / *Pometia pinnata*
- 7 Petai / *Parkia speciosa*
- 8 Manggis / *Garcinia mangostana*
- 9 Jambu / *Syzygium samarangense*
- 10 Tarap / *Artocarpus odoratissimus*

地域の青少年を対象としたプログラム

「木下の森」活動地域の小中高校、マレーシア・サラワク大学、地域村落と協働し、以下の通り、青少年が参加するプログラムを行いました。

9月16日 クライト小学校の児童、教員、近隣小学校の校長先生などが参加し、植林プログラムを実施。

9月23日 テラグス・ジェロ小学校の児童、教員などが参加し、植林プログラムを実施。環境教育プログラムとして、森林と水源保全機能についての講和を行い、後日、児童は森林と水と暮らしをテーマに絵画を作成しました。

10月7日 バライ・リンギン中等学校の生徒、教員などが参加し、植林プログラムを実施。

2月3日 ルブル・リム小学校の児童、教員などが参加し、植林プログラムを実施。

プログラム参加者: 200名

植林総数: 1,755本(フタバガキ科等在来種と在来果樹)

「木下の森」があるアペン国立公園を管轄するサラワク州森林公社から担当者が毎回参加したほか、州教育省や近隣小学校の校長先生の参加を得て、プログラム参加学校を増やしていく機会となりました。

当年度は新たな学校が1校参加しました。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大後の衛生習慣を続けるために、2023年5月から6月に手洗い用消毒液を活動地域の小学校へ寄贈しました。



活動地域の小学校へ手洗い用消毒液を寄贈





「木下の森」で青少年研修プログラムを実施



2023年9月16日 クライト小学校の児童・教員、近隣地域の校長・教員が参加



2023年9月23日 テラグス・ジェロ小学校(初参加)の児童・教員などが参加



テラグス・ジェロ小学校の児童がプログラム後に作成した絵画





「木下の森」で青少年研修プログラムを実施



2023年10月7日 バライ・リンギン中等学校の生徒・教員らが参加



2024年2月3日 ルブル・リム小学校の児童・教員らが参加



「木下の森」で植林活動



アペン国立公園で2,000本の植林作業



作業道補修(左)、下刈り作業(右)



専用苗圃で育苗(左)、村の女性が育てた苗木を買い上げて植林(右)

半島部クダ州・ペナン州「マングローブ林再生プロジェクト」

マングローブ林が生育する湿地帯は、世界の陸地総面積のわずか3%ですが、世界中の陸地に蓄えられている炭素量の30%を保持していることから、生物多様性の保全だけでなく、地球温暖化防止のためにも、マングローブ林の再生は喫緊の課題となっています。

「木下の森」植林プロジェクトでは、2019年度から、マレーシア半島部クダ州ムルボック湿地保護林において、マングローブ林再生プロジェクトを実施しています。

同保護林は、マレーシア半島北部に位置し、スマトラ島沖大地震が発生した際に海岸沿いで津波被害を受けた地域にあります。森林の構成樹種が多く、鳥類が約80種類確認されているなど、多様な生態系が見られます。しかしながら、周辺地域の開発や伐採等による森林の劣化、消失が進んでおり、森林だけでなく、地域に暮らす漁民の生活環境にも影響が出てきています。

本プロジェクトでは、地域社会やマレーシア理科大学等との協働により、育苗・植林と環境教育プログラムなどを行い、マングローブ林の再生による生態系の保全と、炭素貯蔵地として貴重な湿地を守る活動を行っています。

2018年11月、マレーシア政府はムルボックを含む一帯を「ジュライ・ジオパーク」と定め、今後、ユネスコ世界ジオパークの認定を目指すことが表明されました。

「木下の森」が世界のジオパークの一つとなるよう、関係者と取り組んで参ります。

2023年度から、マレーシア理科大学が位置するペナン州政府の要望を受け、同州のスンガイ・アチェ湿地保護林での活動も開始しています。

クダ州ムルボック湿地保護林とペナン州スンガイ・アチェ湿地保護林の森林劣化地域にて、地域住民グループ、小学生、教員、PTA、大学生らと協働し、育苗・植林作業、苗畑・作業場の整備、地域内外の大学生らが参加する教育プログラムなどを行っています。2023年度は、新型コロナウイルス感染拡大による活動制限がなくなりましたが、州政府の指導により、植林プログラムは30～50名の規模で行いました。

ペラ州にあるスルタン・イドリス師範学校の依頼を受け、同州タンジュン・マリムの沿岸林劣化地域で行われた植林活動に、当プロジェクト地の苗圃から苗木を提供し、植林活動を実施しました。

マングローブ育苗・植林活動

年間を通じて、活動地域の村人、学校関係者、マレーシア理科大学、ペナン州大学予科校など290名が植林プログラムに参加し、ムルボック湿地保護林で3,000本、スンガイ・アチェ湿地保護林で2,000本、タンジュン・マリムで200本、合計5,200本(約2.5ha)の植林作業を実施しました。

活動地域の小学校と村落における環境教育・生活向上プログラム

マレーシア理科大学、マレー半島北部の行政・教育機関、村人組織と協働し、地域社会のための教育及び地域支援プログラムを実施しました。

○教育プログラム

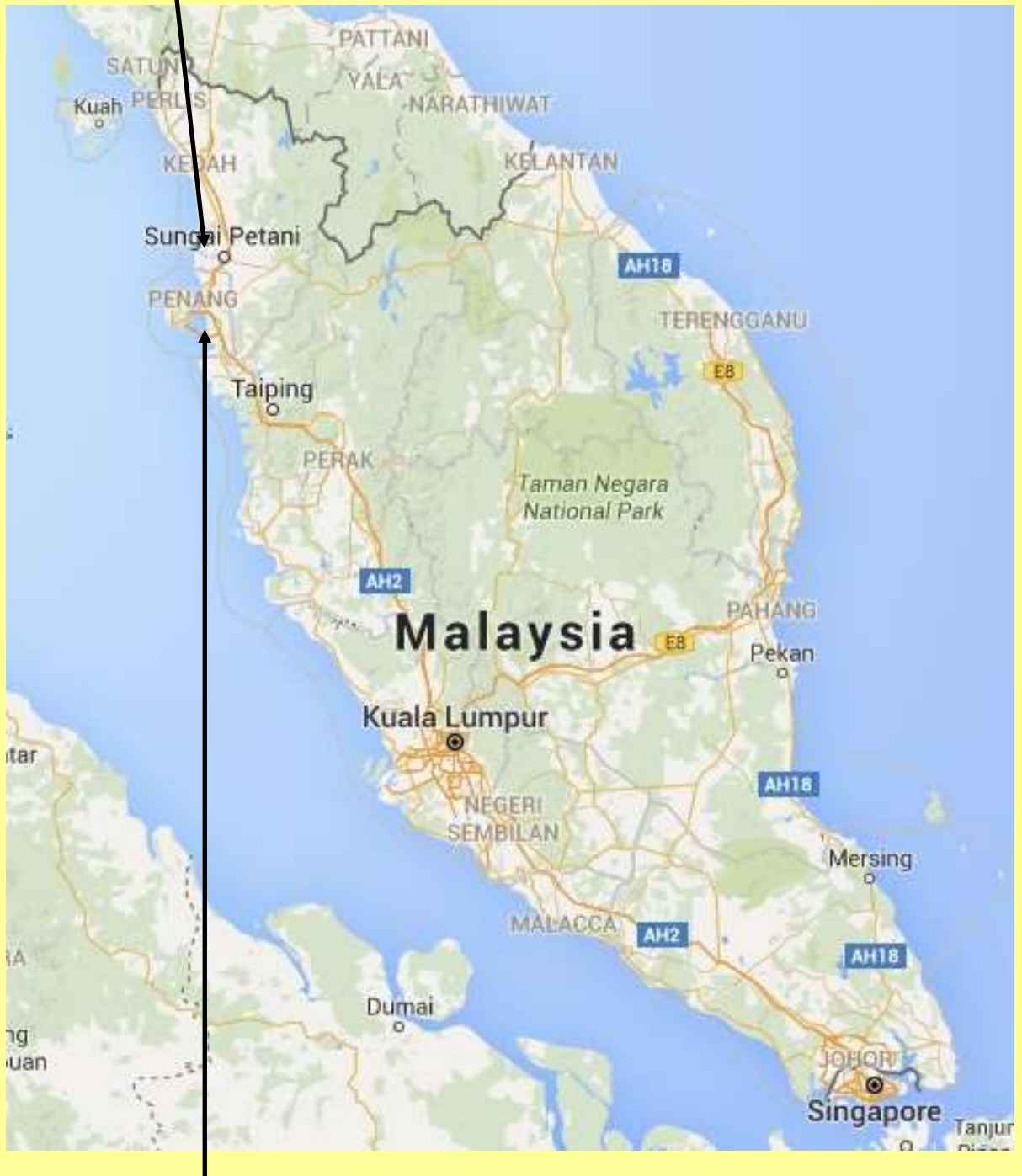
活動地周辺の小学生が、種のまきつけ作業を行ったほか、ハジ・オマー・タヒール小学校に整備した環境ギャラリーでマングローブ林保全について学びました。同小学校では、「歯と健康」衛生プログラムも実施しました。村落の子供たちの学習支援として、村人組織が行っている補習クラスを行う施設の整備と講師として現地の大学生派遣などに協力しました。

○地域支援プログラム

スンガイ・バトゥ・ブシ村において、村の物産・工芸品づくりなどを支援し、住民の生計向上を促すための活動として、マングローブの実を使ったジャムづくり講習を行ったほか、カニの養殖プログラム導入への研修も実施しました。

活動地域

クダ州ムルボック湿地保護林



ペナン州スンガイ・アチェ湿地保護林

マングローブ植林活動



2023年5月28日 地域住民グループが参加(ムルボック)



2023年7月23日 ペナン州大学予科校の学生・教員が参加(ムルボック)



2023年8月24日から1か月間 地域住民グループが参加(スンガイ・アチェ)



マングローブ植林活動



2023年9月23日 ハジ・オマー・タヒール小学校の児童・教員・PTAが参加(ムルボック)



2023年10月21日 マレーシア理科大学学生・教員・スタッフが参加(ムルボック)



2024年1月7日 ペラ州タンジュン・マリム地区でスルタン・イドリス師範学校が植林

マングローブ植林活動



2024年1月18日 マレーシアとオーストラリアの大学生が参加(ムルボック)



2024年1月26日 マレーシアと韓国の大学生が参加(ムルボック)



2024年2月29日 マレーシアと日本の大学生が参加(スンガイ・アチェ)



ムルボック保護林地域のハジ・オマー・タヒール小学校で 地域支援・教育プログラムを実施

2023年7月24日



マングローブの実などを使ったジャムづくりワークショップ



歯と健康 衛生教育プログラム



地域支援プログラム



スンガイ・バトゥ・ブシ村の船着き場にある会所の木道を補修



村の子供たちのための補習クラス活動へ協力(元教員や大学生が英語と算数の補習を実施)



村のカキ養殖場でカニの養殖を開始(写真左はこの地域で捕れるマングローブカニ)

教育プログラム、育苗ほか



教育展示: 左は船着き場の集会場、右はハジ・オマー・タヒール小学校



船着き場付近に整備した苗圃で5種類程度の在来種を育苗



左: 2019年8月の植栽木が大きく成長、右: 植林後1年の様子